ヤスクニ通信　No.281　2023 年 9 月 15 日　例会　毎月第3金曜　7:00～9:00pm（休日の時第 4 金）
発行　靖国神社国営化反対福音主義キリスト者の集い（略称「つどい」）　代表・星出卓也（Tel/Fax042-458-0251）
事務局　西東京市柳沢 2-11-13 西武柳沢キリスト教会気付　HP https://yasukuninotsudoi.christian.jp/

ヤスクニ・レポ　281
海を汚すな

小川　正明（日本基督教団小金教会・会員）

海はゴミ捨て場ではない

海には多様な生物が生活しており、我々には神から与えられた環境を次の世代に受け渡す義務がある。ヒトの都合でこのような生態系を壊してはならない。

一口にゴミと言っても中には捨ててはならないものもある。石油から大量に生産されたプラスチックゴミも脅威であるが、放射性物質は正に捨てることの出来ないものである。

かつては、水俣病の有機水銀やイタイイタイ病のカドミウムなどが、企業の利益のためにたれ流されてきた。六価クロムによる土壌汚染、最近では米軍の消火剤が疑われているＰＦＡＳが多摩地区の地下水で問題になっている。

政府は丁寧に説明して理解を求めると言うが、その中身は、都合の悪いことは一切言わない、出さない、隠す、そして都合の良いことだけを繰り返し流す、さらに拡大解釈をして嘘を広めるというものである。政府の言うことは信用できないということになる。また、これに反することを言うとフェイクだと言われて袋叩きにされる。

東電福島第一原発のタンクに溜められている１３０万トンの液体は何と呼ぶべきだろうか。

中国は核汚染水、韓国の市民団体は放射能汚染水と呼んでいる。

汚染水、処理水、ALPS 処理水、トリチウム水とも言われている。

最近、政府は処理水と呼ぶように推奨しているが、以前はトリチウム水が好んで使われた。トリチウム以外の放射性物質は入っていないと強調したかったのであろう。また、ALPS 処理水もトリチウム水と同じ意味で使われたことがあった。

経産省のホームページにある Q&A によれば、ALPS などを使い、トリチウム以外の放射性物質を規制基準以下まで浄化処理した水が「ALPS 処理水」とされている。

以前も引用したが、第 10 回 ALPS 小委員会の資料３によれば、「タンクに保管されている ALPS 処理水の約 7 割には、2019 年 12 月 31 日時点でトリチウム以外の放射性物質が環境中へ放出する際の基準を超えて含まれている、浄化処理を終えた ALPS 処理水とは言えない」とある。

この実態を考えると、政府が処理水としか言えないことが理解できる。

処理水の中身を問われることがないからである。例えば汚染水に活性炭を放り込んだだけでも処理水に違いない。

同様に汚染水と言うのも中身が分からないので不満である。トリチウムの他にも多くの種類の放射性物質を含んでいて当然放射能がある。ならば、放射能汚染水と言うのが適当と思われる。

核に悪い意味があるわけではないが、核兵器を連想させ、これが核汚染水のダーティなイメージとなっているように思われる。

2019 年に１２０万トン近く溜まっていた汚染水の内、約７割は放出の規制基準を満たしていなかったが、その後どうなったのであろうか。

今年の７月６日、福島県会津若松市にて「海洋放出に関する住民説明意見交換会」があり、資源エネルギー庁参事官や東電の担当者が説明した後の質疑応答で、放出される放射性物質の総量を聞いた。

東電は「タンクの 6 割 5 分が二次処理が必要で、現段階では答えられない。浄化してデータを積み上げる」と答えた。

ざっと計算すると、120 万トンの７割に当たる８４万トンは、国の排出基準を満たさない汚染水である。これに最近までの３年半で追加された処理水１０万トンを加えると、この１０万トンは国の排出基準を満たした処理水であると仮定する、タンクの液体の総量は１３０万トンで、基準を満たさない８４万トンは全体の 6 割 5 分となり、７月６日の東電の回答と一致する。

2019 年末にあった排出基準を満たさない汚染水は今まで再処理されることもなく、放置されていたものと思われる。

ALPS は魔法の箱ではないので、放射性物質を無に

することは出来ない。沈殿させたり、吸着したり、フィルターで濾しとるだけである。その結果、新たに放射性物質で濃縮された汚泥が生成される。

新聞報道によれば、ALPS 処理で生じた放射性汚泥は、今年の 3 月 2 日時点で保管容量の９８%に達したとある。今後も増えるものであるから、ALPS の稼働に支障が起り、再処理どころではないのかも知れない。

8 月 24 日に海洋放出が開始された。今回は始めのことでもあり、世界が注目しているから、品質の良いものから放出したのであろう。

予想された結果である。しかし、国の排出基準さえクリアできない放射能汚染水がまだ全体の６５%も残っているのだから、今後も監視していく必要がある。

薄めて海に流すというのであれば、河川の水、湖沼の水あるいは地下水を汲み上げて、これらの水で「処理水」を薄めて流すものだと思うが、東電のやり方は、太平洋の海水を汲み上げてこれと「処理水」をかき混ぜて太平洋に放出するものである。これでは、薄めたものにならない。かき混ぜながら太平洋に放出すると言うべきである。

速やかに海洋放出を停止し、原発依存のエネルギー政策を改めるべきである。

２０２３年８月２５日奨励
ヨハネの黙示録 15 章 4 節「明らかにされたからです」
星出卓也牧師（日本長老教会西武柳沢キリスト教会）

ガラスの海のほとりに立つ聖徒たちが歌う、神のしもべモーセと子羊の歌の後半は、二つの疑問を投げかけて読む者に問いかけます。

「**主よ。あなたを恐れず、御名をあがめない者がいるでしょうか。**」この二つの疑問の当然の答えは、「誰もいない」です。モーセが紅海の海を分ける神の救いの御業を見た時も、モーセは同じような問いを歌にしました。「**主よ、神々のうちに、だれがあなたのような方がいるでしょうか。だれがあなたのように、聖であって輝き、たたえられつつ恐れられ、奇しいわざを行う方がいるでしょうか。**」（出エジプト 15：11）

この問いの答えも同様に、「そのような方は他には誰もいない」です。しかも今回のガラスの海のほとりに立つ聖徒たちの賛美は、このモーセの歌よりももっとスケールが拡大しています。エジプトの強大な軍隊だけでなく、「**すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。**」と語っているように、その規模は世界大、文字通りに「すべての国々の民」です。全世界の民を圧倒させ、恐れさせるほど、神の正しいさばきが明らかにされたと歌っています。出エジプト記 15 章でモーセが歌った歌と内容は全く同じでも、全世界の民のあらゆる人々が神の義なる審判に恐れおののいています。

「**あなただけが聖なる方です。**」と語っている「聖」と言う言葉は、汚れの対極にあるもの。どのような汚れも何一つ見当たらないという意味です。つまり、この方だけがまことに礼拝されるべき方で、他の礼拝を強要したものたちの性質は、この神の聖に対して、極めて汚れているものでしかなかったのです。黙示録 13 章の中で、世界中のあらゆる民が、獣に対してひれ伏して礼拝をする様子が描かれていますが、それらの礼拝は全て偽り、汚れた礼拝です。その礼拝のなかに真実は無く、全てが偽物、まがいものです。その全世界を覆い尽くす偽りの礼拝の化けをはがすのが、神の審判の御業です。獣を拝んできた全世界の民が、その日、嘘が明らかになり、恥じ入るようになります。そして唯一、礼拝するべき方を礼拝し続けた、苦しみと苦難の中に会った主の聖徒たちの礼拝こそが、本当の汚れなき方をあがめ、礼拝するべき方を礼拝するまことの礼拝であったことを明らかにすることとなります。

「**すべての国々の民は来て、あなたの御前にひれ伏します。あなたの正しいさばきが明らかにされたからです。**」

主の裁きが明らかにされる時、あらゆる民がこの主を恐れ、神の裁きの前にひれ伏し、この世界の結末になされた神の正しい御業、義なるさばきを褒め称えています。

私たちはこの今の時代に、どれほど神の正しい裁きが隠されているように見えても、この神の裁きの前に全世界の民が恐れ戦く時が必ず来ることを、しっかりと受け止めようではありませんか。

その日には「**主よ。あなたを恐れず、御名をあがめない者がいるでしょうか。**」の問いに世界中の誰もが、他には誰もいない、と答え、ひれ伏します。ガラスの海のほとりに立つ聖徒たちは、獣の像と、その名を示す数字に打ち勝った聖徒たちであると、15 章 2 節に書いてありましたが、この打ち勝つという意味は、獣の脅かしにも拘らず、死に至るまで神に従った、という勝利です。つまり現実にはその聖徒たちの大勢は殺され、敗北をしているようにしか見えなかったということです。しかし彼らこそがモーセと子羊の歌を歌う者たちなのです。